

バスケットボールの情報分析方法の提案と検証

アイシンシーホースが JBL2009 - 2010 シーズンにて優勝出来なかった要因は何か

コーチング科学研究領域

5009A062-6 長田 真緒

研究指導教員：倉石 平 准教授

I, 緒言

バスケットボールの試合に勝利するためにはチームの実力を作りだす様々な要素（身体的コンディショニング, 精神的コンディショニング, 技術, 戦術戦略, 運 etc.）の状態を良くし, ゲームにて 100%力を発揮できるように調整する事が重要である. 特に, トップレベルのチームが伯仲したチーム同士の試合を勝ち抜いていくためには, 「戦術戦略」が鍵となり, 戦術戦略立案のために自他チームに関する情報収集及び分析は不可欠であると言える. しかし情報分析に関して日本は欧米諸国に対して遅れを取っており, 具体的な情報分析方法について示された研究報告は少ない. よって本研究では①コーチの主観的な判断によるコーチングを助ける客観的な情報分析方法を提案し, ②実際に事例研究を行う事で分析方法を検証する事を目的とする. なお事例として, JBL が開幕して以降 2 年連続優勝を遂げた日本の中枢チームの敗因分析を行う.

II, 調査① 情報収集源より得られる情報を用いた「情報分析方法」の提案

先行研究より, 情報収集源 (BOXSCORE, PLAY BY PLAY, 映像分析) より得られる情報*と, 情報の抽出方法・情報の観点を提案した.

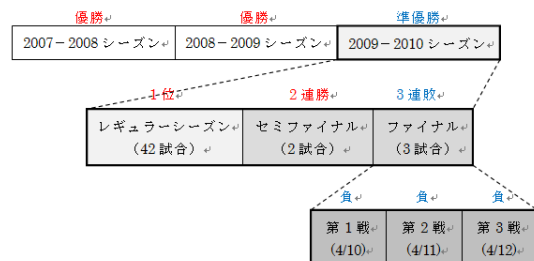
*BOXSCORE 掲載の全 26 項目/ペースファクター/オフェンシブエフィシエンシー・ディフェンシブエフィシエンシー/得点差異変遷表/プレイングタイム構成表/攻撃回数/攻撃体系別出現回数・成功数・出現頻度・成功率/ディフェンスの種類/ターンオーバーポイント

III, 調査②「情報分析方法」を用いて検証研究を実施～アイシンシーホースが JBL2009-2010 シーズンにて優勝出来なかった要因は何か～

【方法】

研究対象は JBL2009-2010 シーズンのアイシンシーホース戦全 47 試合とし, 情報の収集には JBL 公式ホームページ掲載の BOXSCORE, PLAY BY PLAY, JBL 公式の試合映像を使用した. また, BOXSCORE の平均値比較には対応のない t 検定を用いた. なお, 敗因の分析は以下の順で実施した.

- 1) 前の 2 シーズンと比較した際の 2009-2010 シーズンのアイシンのチーム状態の把握
- 2) 2009-2010 シーズンファイナルの敗因分析



【結果・考察】※カギカッコ内は情報名

1) アイシン・リンク栃木のチーム特徴

「ペースファクター」より, アイシンはセットプレイを中心としながら適所で速攻を用いるチーム, リンク栃木は攻撃回数の多い速攻型のチームである事が示唆された.

2) オフェンス力が低下傾向にあった 2009-2010 シーズンのアイシン

「オフェンシブエフィシエンシー・ディフェンシブエフィシエンシー」より, 2009-2010 シー

3)リンク栃木に対して徐々に勝てなくなるア
イシン

4)アイシンがリンク栃木に敗戦した要因

[illegible]

なお「プレイングタイム構成表」より、注目時間帯においても主力メンバーが出場しており、主力メンバーの不足により敗戦した訳ではないと考えられる。

本研究の目的は、コーチングの現場で実際に使える情報分析方法を提案すること、実際に事例研究を行うことで提案した分析方法を検証する事であった。

提案した情報分析方法より抽出された情報を相互に組み合わせることで、事例研究にてアイシンの敗因を導き出すことができ、またそれがアイシンのヘッドコーチである鈴木氏が評価する敗因と類似していたことから、本研究で示す情報分析方法是、実際に発生した事象の客観的把握には有効である事が示唆された。

なお本研究においては、提案した数値を試合結果の分析に使用したが、コーチがチーム作り、ゲームプランを作成する際の目標数値としても使用できると考える。